第１学年Ｃ組　国語科学習指導案

授　業　者　　小松田　ひかり
研究協力者　　阿部　　昇，成田　雅樹

１　単元名　　答えを見付けながら読もう～うみのかくれんぼ～

２　子どもと単元

(1) 子どもについて

初めて学んだ説明文である「くちばし」では，本文を４つのまとまりに分け，内容のまとまりごとに，どこが説明文における「問い」でどこが「答え」かを読み取った。内容の読み取りの他にも，書き方について，「問い」の次に「答え」があることに気付いた子どももいた。終末には，教師がいくつか示した資料をもとにして，「くちばし」と同様の書き方で，他の鳥のくちばしについて説明する文章を書く活動を行い，内容だけでなく書き方にも子どもたちの意識が向いてきている。

本文の大事な言葉を見付けたり，読み取ったことを話したりする力には，個人差がある。一人で内容を読み取り，自分の考えをたくさん話せる子どももいるが，まだ半数程は，一人ではなかなか読み取ることができなかったり，本文を踏まえないで想像したことを話したりする姿も見られる。ペアの話合いでは友達の考えを聞き，それをヒントに自分の考えをもつことにつなげる活動を行ってきたが，まだ考えを深めるための「対話」という意識は，十分に育っていない。

(2) 単元について

辞典，図鑑，解説文，取扱説明書など，私たちの周りには，様々な説明的文章があり，時には限られた時間の中で，それらを正しく読み取ったり，必要な部分を見付けて読んだりする必要に迫られる。そんなとき，文章の構成や段落の役割などの「書き方」に目を向けることで，大切なところや必要なところを見付けながら読むことができるようになる。

本単元では，「書き方」について学ぶ入門期として，「問い」と「答え」を見付ける，意味段落に分ける，説明される事柄の順序に着目して読むといった学習活動を設定する。その際，既習の「くちばし」で学習したことを思い出し，本文と比べながら読むことで，説明的文章についての学習を積み重ねていくことができるようにする。

本教材「うみのかくれんぼ」は，子どもたちが学習する２つ目の説明文である。「問い」が１つ，その後に「答え」が３つ続く構成の説明文である。既習の説明文「くちばし」は，「問い」と「答え」が３回繰り返される構成となっている。この後に学習する説明文「じどう車くらべ」は，「うみのかくれんぼ」と同様の構成となっている。本単元は「じどう車くらべ」でも，「問い」と「答え」を対応させながら事柄の順序に着目して読む力を育むことにつながる単元である。

(3) 指導について

本単元の新たな価値は，「問い」と「答え」を見付ける，段落分けをする，順序に着目するといった力を確かなものとし，文章全体に掛かる「問い」の役割について理解することである。そのために，「問い」と「答え」の段落に着目し，説明的文章の構成をとらえる「見方・考え方」を働かせた学習活動を，単元を通して位置付ける。既習の説明文である「くちばし」と本教材を比べて，「問い」と「答え」の書かれ方の違いを見付ける。このとき，文章全体をとらえて比べられるように，掲示を工夫する。また，「問い」「答え」のまとまりをとらえることができるように，色分けして提示する。第２～４時に，「答え」の段落を読む際には，どこに何が書かれているかを色分けしていくことによって，書かれている事柄の順序に規則性があり，読みやすいことにも気付かせたい。また，第７時の終末では，これから学習する説明文は，「答え」1つに掛かる「問い」と文章全体に掛かる「問い」のどちらが多くなりそうか投げかけ，今後の学習への関心を高める。

１年生は，音読をすることによってより確かに言葉をとらえていくことができる。学習の始めや大事な読み取りの場面で，音読を取り入れていきたい。何度も音読することによって，黙読するだけでは気付きにくい言葉の些細な違いを感じ，より深く読み取ろうとするきっかけにもなるだろう。第６時で，「うみのかくれんぼ」に「問い」を３回入れた文章を使って比べ読みをする際も，読み手が受ける感じ方の違いに気付くことをねらい，音読する場を設定する。

自分の考えをもち，友達の考えと比べながら聞いたり，自分の言葉で表現したりする中で本教材を読み深めていく姿を期待し，どの言葉に着目したらよいのかについて，ペアや全体での「対話」を効果的に取り入れていく。

３　単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

(1)　説明的文章の書き方に興味をもって読もうとする。〈ｴ〉

(2)　「問い」と「答え」の段落を関係付けながら，生き物のかくれ方の違いを読むことができる。〈C-21・22・b・f〉

(3)　文章全体に掛かる「問い」の役割について，とらえることができる。〈C-17・22・b・f〉

(4)　事柄の順序に気を付けながら，生き物のかくれ方を説明する文章を書いている。〈C-21・22・66・a・f〉

4　単元の構想（総時数10時間）

時間	学習活動	教師の主な支援	評価 〈本校の資質・能力との関連〉
1	(1)　「うみのかくれんぼ」の読み聞かせを聞き，学習課題・学習計画を設定する。	・　子どもの言葉を生かして学習課題をつくることができるように，「うみのかくれんぼ」が既習の「くちばし」(説明文)と，「はなのみち」(問題文)のどちらの仲間か考える時間を設定する。	・　「うみのかくれんぼ」を読んで，これから学習したいことについて考えている。 〈C-21･22･ｴ〉
	学習課題 「うみのかくれんぼ」と「くちばし」の書き方を比べながら読もう。		
2	（2）　「うみのかくれんぼ」を４つのまとまりに分け，はじめが「問い」であることを読み取る。	・　複数の文を「まとまり」としてとらえられるように，まとまりに小見出しをつける。	・　本文を４つ意味段落に分け，始めの段落が「問い」であることに気付いている。 〈C-17･22･f〉
3 4 5	（3）　「うみのかくれんぼ」をまとまりごとに読み，「何が」「どのように」かくれているのか読み取る。 ・はまぐりについて ・たこについて ・もくずしょいについて	・　各段落で書かれている事柄の順序が揃っていることに気付くことができるように，「何が」「どこに」「体の特徴」「かくれ方」などの読み取ったことを色分けして，拡大した本文に，線を引いていく。 ・　生き物の動きを具体的にイメージできるよう，動作化を取り入れる。	・　「答え」に書いてある内容を，叙述から読み取っている。 〈C-21･22･b･ｴ〉 ・　各段落に書かれている事柄の順序が同じであることに気付いている。 〈C-21･22･b･f〉
6	（4）　「うみのかくれんぼ」と「くちばし」の書き方で，似ているところを考える。	・　書き方で似ているところを考えることができるように，内容に関する発言が続いたときには，学習課題を再度確認する。	・　２つの説明文の似ているところについて，考えている。〈C-22･f･ｴ〉
7 **本時**	（5）　「うみのかくれんぼ」と「くちばし」の書き方で，違うところを考える。	・　問いの文が１つに対して，答えが３つあるという「うみのかくれんぼ」の構成の特徴に気付くことができるように，まとまりの役割という視点で「くちばし」と比較する活動を設定する。	・　文章全体に掛かる「問い」の役割について考えている。〈C-22･f〉
8 9	（6）　他の生き物について，「うみのかくれんぼ」と同じ順序でかくれ方を説明する文章を書く。	・　目的に合った資料を選ぶ楽しさを味わうことができるように，図鑑や科学読み物を取りそろえておく。 ・　本文の表現や構成をもとにして書けるように，色分けした本文を掲示していつでも参考にできるようにする。	・　本や資料から必要な部分を探して読み，事柄の順序に気を付けて説明する文章を書いている。 〈C-21･22･66･a･f･ｴ〉
10	（7）　書いた文を読み合い，ふり返りをする。	・　「うみのかくれんぼ」と同様の構成となるように，「問い」のまとまりを考える活動を取り入れる。	・　構成や順序について学んだことや，それを生かして書いたことについてふり返っている。 〈C-21･22･ｴ〉

5　本時の実際　（７／１０）

(1) ねらい

「うみのかくれんぼ」と「くちばし」の書き方の違いを話し合う活動を通して，「問い」の役割やそのよさについて考え，文章全体に掛かる「問い」の役割やよさに気付くことができる。

(2) 展　開　　○：「仲間との対話」を通して新たな価値を創造するための手立て

時間	学習活動	教師の支援　評 価
５分	①　本時の学習問題を確かめる。	・　本時では「書き方」の違いを考えることをとらえられるように，前時の学習を想起させ「問い」や「答え」があることが同じであったことをふり返る時間を設ける。
	学習問題 「うみのかくれんぼ」と「くちばし」の書き方の違いは何かな。	
30分	②　「くちばし」と「うみのかくれんぼ」の違うところを話し合う。 **【仲間との対話】** （予想される子どもの反応） ・　出てくる生き物が，違う。（内容について） ・　「問い」の文が違う。 ・　「問い」が「うみのかくれんぼ」は１つ，「くちばし」は３つある。 〈なぜ問いが１つでよいかについて，予想される子どもの反応〉 ・　何回も問いが出てくると，読むのが大変だ。 ・　同じ「問い」だから，１回で分かるよ。 ・　「問い」と「答え」が，離れていても，何を聞かれているか，分かるから，３回読むのはめんどくさいな。	・　自分の考えをもつことができるように，違いを探しながら「くちばし」「うみのかくれんぼ」を音読する時間を設ける。それだけでは違うところが見付けられない子どもも自分の考えをもつ一助となるように，ペアで，考えを伝え合う時間を設定する。 ・　「問い」の違いに焦点化した「対話」ができるように，書き方と関係の無い発言が続いた場合は，学習問題を再度確認したり，前時をふり返ったりする。 ・　「問い」の数が違うことだけではなく，「くちばし」の「問い」は１つの「答え」に，「うみのかくれんぼ」は３つの「答え」に掛かっているという「問い」の働きが違うことにも気付くことができるように，「くちばし」と「うみのかくれんぼ」の「問い」に対する「答え」はどこか，考える時間を設ける。 ○　「問い」が１つでよいわけを考えられるように，「うみのかくれんぼ」に問いを３回入れた本文を音読して，感じたことを出し合う活動を設定する。 ・　「くちばし」では，３つのくちばしをそれぞれ指すために「問い」が３回あるよさを考えられるように，クイズのように絵を提示しながら読み聞かせをして，１回ではどうか考える時間を設ける。
10分	③　本時のふり返りをする。 **【自分との対話】** （予想される子どもの反応） ・　問いが１回しか出てこないこともあるとわかった。 ・　全部の「答え」につながることが分かった。 ・　他の説明のお話でも，「問い」がいくつなのか読んで確かめたいな。	・　「対話」を通して深まったことについてふり返ることができるように，２つの説明文の「問い」の違いについてペアでふり返る場を設定する。その後で，ワークシートにも記号でふり返りをする。 ・　１つの「問い」が，全ての「答え」に掛かる構成は，上の学年でも出てくることを紹介し，身に付けた力を価値付ける。 １つの「問い」が全ての「答え」に掛かるという「問い」の役割やそのよさに気付いている。 〈C-22･f〉（発言，ワークシート）

(3) 「仲間との対話」を通して新たな価値を創造する子どもの姿

《学習活動③において》

子どもの姿

・ 「くちばし」の「問い」は３回，「うみのかくれんぼ」の「問い」は１回という回数の違いには気付いているが，「うみのかくれんぼ」の１つの「問い」が３つの答えに掛かっているということには，まだ気付いていない。

【学びを深める「見方・考え方」】「問い」と「答え」の役割に着目し，説明的文章の構成をとらえる。

【教師の手立て】

・ 「問い」の数が違うだけではなく，「問い」がどのように「答え」に掛かっているか話し合いながら，「くちばし」と「うみのかくれんぼ」の「問い」の役割の違いを明らかにしていく。さらに，文章全体に掛かる「問い」のよさに気付けるように「うみのかくれんぼ」に問いを３回入れた本文を提示し，比べ読みをする時間を設ける。

Ｔ：「音読をしてみて，もとの『うみのかくれんぼ』と比べてどう思った？」
Ｃ：「なんだか，読みづらかった。」
Ｃ：「『問い』を３回読むのは，変だな。１回だけの方が，読みやすいな。」
Ｃ：「『問い』は１つでよいと思う。」

・ 問いが３回だと違和感があることを共有してから，どうして「問い」が１回でよいのか考える。「くちばし」と「うみのかくれんぼ」の「問い」の役割の違いを明らかにしていく。

【協働して追究する「問い」】
どうして，「うみのかくれんぼ」の「問い」は１つでよいのだろう。

仲間との対話

・ 同じ「問い」が３回も出てくるとしつこい。「もう分かっているのに」と思う。

・ 「うみのかくれんぼ」の，「何が，どのようにかくれているのでしょうか」という１つの「問い」が，３つの「答え」とつながっている。全部の答えとつながっているから，１つでいいんだ。

・ ３回書かなくても，最初にだけあれば分かる。ない方がすっきりする。

・ 「くちばし」では，「これは，何のくちばしでしょう。」とクイズみたいだった。クイズを出して答えを言ってたから３回あった。

・ 「くちばし」の問いは，1つの「答え」としか，つながっていない。だから，３つあるのではないかな。

目指す子どもの姿

・ 「問い」と「答え」の役割に関連付けながら，１つの「問い」が全ての「答え」に掛かっていることに気付いている。
・ 「うみのかくれんぼ」の「問い」が１つでよいことを説明している。